

平成 25 年 12 月 3 日

新潟市議会議長 様

議 員 風間 ルミ子

## 質 問 通 告 書

次のことについて質問したいので、会議規則第 61 条第 2 項の規定により通告します。

質問方式	一 括 ・ 一 問 一 答 ・ 分 割
------	---------------------

### 発 言 の 要 旨

#### 1 農政について

##### (1) コメの生産調整中止方針に関連して市長の見解を伺う

ア 農水省は国の責任で進めるコメの生産調整を全面的に廃止する方針を出したが、市場任せは米価暴落を招き、大規模経営や集落営農はじめ農村全体が厳しいものとなる。主食であるコメの需給と価格の安定は国が責任を果たすべきであり、価格保障・所得補償制度を抜本的に充実することが求められると思うがどうか

イ 飼料用米は拡充するとしているが、米価が下がれば助成単価も下がることにつながるのではないか。また、主食用米に混入を防ぐ水田の特定や保管施設、流通の管理が必要になると思うがどうか

エ 新潟市農業に与える影響についてどのように考えるか

##### (2) 農地中間管理機構について

ア 農地の貸出先を公募する方法をとっているが、「販売力」「資金調達力」のある企業経営が優先されると思うがどうか

イ 条件の悪い農地の切り捨てにつながり、耕作放棄地が拡大すると思うがどうか

ウ 「農業の競争力強化」が優先され、地域の実態に即した判断や、市町村・農業委員会の意見を反映させる保障がなくなると思うがどうか

エ 農地の耕作者主義と自主管理は、持続可能な農村社会の形成のためにこれからも堅持すべき原理と思うがどうか

### (3) 新潟市農業構想について

ア 現在の「新潟市農業構想」は平成26年度までの計画になっているが、新たな計画策定に向けてのスケジュールや、これから策定する新潟市総合計画との関連、生産者、消費者、関係団体等の意見反映の手法など、基本的な考え方を伺う

イ 「新潟市農業及び農村の振興に関する条例」では、第1条「目的」において「食料・農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、本市の農業及び農村の振興並びに豊で住みよい地域社会の実現に寄与する」となっている。毎年のように変わる国の農業政策の中で、どのように総合的かつ計画的に施策を推進するのか

ウ 田園型政令市の中核とすべき思想は、市場原理主義的農政ではなく、各地・各区の特色を生かしつつ、食料自給率向上、多様な後継者の育成、食の安全の取り組みや消費者との共同を広げるなかで、農家の所得向上、地域農業の再生を目指すきめ細かな施策が必要と考えるがどうか

## 2 ゴミ政策について

### (1) 新ごみ減量制度導入後のごみ量について

ア 平成20年度から導入された新ごみ減量制度導入後2年間の家庭系ごみ量は2～3割程度減量したが、その後は横ばいであり、平成24年度は前年度より増加に転じた。ごみ処理基本計画によれば、最終目標である平成31年には一人一日474gまで減量したいとし、ごみの発生抑制や分別強化を図っている。具体的な取り組みを伺うとともに、意識啓発のためには広報などにとどまらず、職員が直接地域に出向いて啓発活動に取り組むべき

イ 事業系ごみはこの間ほとんど横ばいの状況である。昨年3月議会では、定期的な搬入規制のさらなる強化、事業者に対するごみ減量、資源化に対する意識啓発を行うとしていたが、その効果は出ているのか。今後の取り組みはどうか

### (2) 焼却中心から脱却し、ごみ減量・資源化を一層推進するために

ア 市役所からリユースを進める一環として封筒の再利用化を

イ 生ごみ減量施策について答申でも触れられているが、他市の例なども参考に堆肥化や発電など具体的検討を進めるべきではないか

## 3 北区自治協議会から出された「北区郷土博物館の充実に関する意見書」に関連して

(1) 回答では意見書に沿うような方向で区づくり事業の中で対応するとしているが、収蔵庫のスペースは十分か、拡充する必要はないのか

(2) 木崎村小作争議の資料について

ア 木崎村小作争議関連の資料は全国的にも貴重なものである。北区のみならず市内すべての子供たちにも触れてもらう取り組みをすべきと思うがどうか

イ 旧農民学校跡地近くにある木崎村小作争議記念碑の維持管理について、市の支援は考えられないか